

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520190

研究課題名(和文)現代日本のポピュラー音楽の歴史的・文化的再評価と海外での受容に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary Research on the Reexamination of the Japanese Popular Music History and its Global Reception

研究代表者

長澤 唯史 (NAGASAWA, Tadashi)

椋山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：50228003

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：現代日本のポピュラー音楽が海外でいかに受容されているか、どのような評価を受けているかを、国内外の資料および現地調査によって調査するとともに、過去の日本のポピュラー音楽研究で軽視されがちであったアニメやボーカロイド等のコンテンツの影響について再検討を行った。

過去の日本ポピュラー音楽史で軽視されてきた1970年代の洋楽受容が、ニューミュージックからその後のJ-POPへとつながる重要なカギとなることを検証した。ボーカロイドやアニメソングなどが、海外の日本音楽マニアの枠を超えて普及しているが、それもある程度限定された層の中での流行であり、その外部への浸透には大きな課題があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In this project, I have studied how Japanese popular music has been received and evaluated inside and outside of Japan through surveying preceding studies as well as on-site investigation in the U.S., UK, China and other places. At the same time, the impacts and influences of vocaloid and Anime contents were evaluated through on-site interviews and other methods. These researches leads to these conclusions: the reception of the Western popular music by Japanese audience as well as musicians should be evaluated more important and the resources for producing later Japanese popular music, and the effects of Anime or other so-called "cool Japan" contents are limited to the reception of Japanese popular music because those contents are consumed in the very different contexts.

研究分野：英米文学・文化

キーワード：ポピュラー音楽 ポストモダニズム アヴァン・ポップ 洋楽受容 ボーカロイド

1. 研究開始当初の背景

(1) イギリスとアメリカを中心に、ポピュラー音楽は様々な領域を横断した研究対象(分野)となっているが、欧米中心的な価値観で日本のポピュラー音楽を評価する試みが主であった。

(2) 一方日本の音楽を主な対象とした研究では、理論的背景を持ったものがまだ少なく、多くは通時的な記述にとどまっていた。

(3) 近年のいわゆる「おたく文化」から派生したボーカロイドやアニメソングの流行のような現象については、ポピュラー音楽の理論や歴史と結び付ける論考は皆無に等しい状況であった。

2. 研究の目的

(1) 日本のポピュラー音楽史の再検討と新たな視点の構築：社会的背景などから音楽を読み解くコンテキスト分析と、作品そのものの構造や効果を扱うコンテンツ分析を接続させ、音楽の内部と外部からその変遷と特徴を検討した。最終的には外部からの視点も導入して多角的な日本ポピュラー音楽史の構築を目指した。

(2) 現在の日本のポピュラー音楽の海外展開の現状と課題：日本のポップカルチャーの枠でポピュラー音楽が語られない現状の背後にある日本のポピュラー音楽を巡る「特異性」を様々な角度から分析し、ポピュラー音楽分野でなぜ海外展開が立ち遅れているのかを検討した。

(3) 他ジャンルにおける海外展開の現状と、音楽業界への提言：海外でも人気を博しているボーカロイドに焦点を当て、その魅力と成功の理由を検討した。そこから日本のポピュラー音楽の海外展開に取って重要な要素や戦略についての考察も行った。

3. 研究の方法

(1) 日本のポピュラー音楽研究に関する資料収集とその再検討のために、日本におけるポピュラー音楽研究の資料収集・分析、音楽学・社会学・社会心理学などの理論的研究とその資料収集、音源収集やフィールドワークによる情報収集を行った。具体的には日本のポピュラーミュージックの主要な音源と研究・批評等の文献収集、音楽研究全体の中での日本の大衆音楽への言及を資料によって調査した。

(2) 日本のポップカルチャーの文脈からのポピュラー音楽の再検討のために、ポップカルチャー・コンテンツとしてのポピュラー音楽の現状分析、ポップカルチャー研究の知見、手法の応用による音楽評価を行った。具体的にはポストモダニズム/アヴァン・ポップの文脈からのポピュラー音楽史の再検討、現代文化におけるポピュラー音楽の表象の検討を、主として文学作品や映像作品との比較検討を通じて行った。

(3) 海外での研究・受容に関する調査につい

ては、音楽研究分野における日本のポピュラー音楽の評価の研究、海外での日本文化に関する研究資料の収集・分析、ポピュラー音楽を巡る状況に関する現地調査を行った。具体的には海外で発行されている日本音楽研究、および日本研究分野での大衆文化に関する言及・分析を、文献やインターネット等の資料を通じて調査し、各地での日本のポピュラーカルチャーの受容について、現地調査を行った。具体的な地域と内容は以下のとおりである。

2012 年度：米国(現地調査、資料収集)、ニュージーランド(現地調査、聞き取り調査)

2013 年度：米国(現地調査及び資料収集)、中国(現地調査、聞き取り調査、資料収集)

2014 年度：英国(現地調査、資料収集)

また国内の研究者等を招聘して意見交換を行う場として、各種シンポジウムやフォーラム等を企画し、製作現場からの声も聴取しながら具体的な問題点の検出とその対策についても検討した。

4. 研究成果

(1) 日本のポピュラー音楽受容については欧米よりもアジア地域などで積極的に行われていること、だが全体として他のポピュラーカルチャー分野に比べて大幅に立ち遅れていること、その中でボーカロイドやアニメソングなどのネット文化に密接に結びついたコンテンツは検討していることが確認できた。

(2) 日本のポピュラー音楽の視聴や流通・販売に関する現地調査を通じては、ますますネット依存が高まっている現状が確認でき、そのプロセスに乗りやすいコンテンツとしてアニメからの楽曲やボーカロイドの人気相対的に高くなること明らかになった。また中国などにおいても先進国同様に書店やCD ショップが減少しネットでの普及が主になりつつあるため、欧米とさほど状況は変わらないことが見て取れた。

(3) 研究者や制作者との意見交換においては、現在コンテンツ制作の現場で中心となる世代が、1970 年代の音楽産業全盛期の音楽やジャンルに大きな影響を受け、その影響圏内からいまだに日本の音楽やポピュラーコンテンツが形成されている状況が見えてきた。

以上の調査の結果から、とくに以下の2点について重要な点として指摘しておく。

(4) 過去の日本ポピュラー音楽史で軽視されてきた 1970 年代の洋楽受容が、ニューミュージックからその後の J-POP へとつながる重要なカギとなる。とくに聴取者の組織化という点において 1970 年代の洋楽受容が重要であり、その洋楽の受容を通じてリスナーの志向性や方向性が構成されること、そこから

90年代以降のJ-POPの方向性が決定されたことなどが明らかになったと考える。

(5) ボーカロイドやアニメソングなどが、海外の日本音楽マニアの枠を超えて普及しているが、それもある程度限定された層の中での流行であり、その外部への浸透には大きな課題があることが明らかになった。これまでの日本のポピュラーミュージックの海外進出において大きな壁と考えられてきた「日本語」がじつは障壁とは考えられていない、というのがボーカロイド受容において大きな要因となっているが、それはアニメ・マンガなどのコンテンツが先行して作り上げたコミュニティ内部の嗜好に依存しており、その外部に浸透するだけの力はまだ持ち合わせていない。一方で英語による楽曲製作を積極的に行ってきた日本のロックバンドが徐々に海外で人気を博しつつある現状も見えてきている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

1. 長澤唯史、「フィッツジェラルドと映像 / 音のテクノロジー」. *The F. Scott Fitzgerald Society of Japan Newsletter*, No.27. 2012. 7-8.

2. 長澤唯史、「川村亜樹『ヒップホップの政治学 若者文化によるアメリカの再生』書評」. 『中部アメリカ文学』第 16 号. 2012. 21-24.

3. Tadashi NAGASAWA. “Review of Paul Giles: *The Global Remapping of American Literature*.” 『英文学研究(英文号)』, 55 巻. 2013. 1-7.

4. 長澤唯史。「ブライアン・マクヘイル『ピンチョンのポストモダニズム』翻訳および訳注」. 『現代作家ガイド トマス・ピンチョン』. 彩流社. 2014. 52-79.

5. 長澤唯史。「日本のポピュラー音楽史の再検討 1970年代の洋楽受容を中心に」. 『椋山女学園大学研究論集』第 46号人文科学篇. 2015年. 29-40.

[学会発表](計 11 件)

1. 長澤唯史。「フィッツジェラルドと映像 / 音のテクノロジー」. *The F. Scott Fitzgerald Society of Japan* シンポジウム(招待講演). 2012年4月28日. 成蹊大学.

2. 長澤唯史。「政治的言説としての「アヴァン・ポップ」再考」. 日本アメリカ文学会第 51 回全国大会シンポジウム(招待講演). 2012

年 10 月 14 日. 名古屋大学.

3. Tadashi NAGASAWA. “How Japan Has Gone Background: Development and Changes in the Representation of Japan in William Gibson's Fiction.” 慶應 G-SEC 国際シンポジウム(招待講演). 2013年3月16日. 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所.

4. Tadashi NAGASAWA. ““We Wear the Mask”: An Alternative Perspective on the African American Music.” 国際シンポジウム “Race and Ethnicity in American Literature and Culture: A Reconsideration”. 2013年3月17日. 名古屋大学.

5. 長澤唯史。「日本での洋楽ロックの受容とその影響」. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究会「日本での洋楽ロックの受容とその影響」. 2013年11月2日. 椋山女学園大学.

6. 長澤唯史。「初音ミク / ボーカロイドが紡ぎ出す夢」. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究会「初音ミク / ボーカロイドが紡ぎ出す夢」. 2013年11月21日. 椋山女学園大学.

7. Tadashi NAGASAWA. “Development and Changes in Representation of Japan in Popular Fiction after the 1970s” 国際シンポジウム “American Literature/Culture in a Global Context”. 2014年3月6日. 名古屋大学.

8. 長澤唯史。「欧米と日本での SF 研究の歴史」. 中日科幻対話(招待講演). 2014年3月11日. 北京師範大学.

9. 長澤唯史。「2024年に SF 文学は生き延びているか」. 中日科幻対話(シンポジウム). 2014年3月11日. 北京師範大学.

10. 長澤唯史。「『鋼の錬金術師』の物語構造」. 国際文化フォーラム「日本アニメ・マンガの海外展開とその未来」. 2014年11月1日. 椋山女学園大学.

11. 長澤唯史。「初音ミク / ボーカロイドが紡ぎ出す夢 Updated」. SF インターメディアフェスティバル 2015. 2015年3月7日. Spazio Rita (名古屋市)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]
出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

新聞書評『エドガー・アラン・ポーの復讐』
『日本ミステリー小説史』『向井豊昭の闘争』
他全 14 篇、時事通信社より配信、2012-2014

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長澤 唯史 (NAGASAWA TADASHI)

梶山女学園大学・国際コミュニケーション

学部・教授

研究者番号：50228003